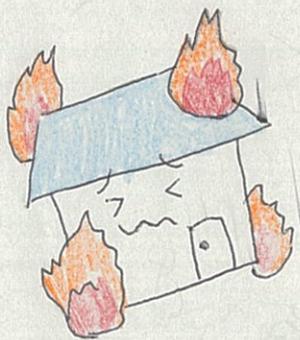




# 幸中防災 リーフレット



# 災害と乳児

## 1. 日常生活や避難所生活で困ること

- ・泣きやまない
- ・転ぶ
- ・体温調節が難しい
- ・目を離すとどこかへ行く
- ・睡眠不足、夜泣き
- ・母親が自分の時間をとれない など



地震の際には、ミルクのためのお湯が作れないなど災害ならではの困りごとがあります。

## 2. 赤ちゃんのために備えよう【防災バッグ】

- ・哺乳瓶
- ・紙おむつ
- ・母子手帳
- ・粉ミルク、液体ミルク
- ・お尻拭き など



また、避難グッズを入れる袋はリュックなど両手が自由になり、避難の際に赤ちゃんを抱っこできるようなものがベスト！

## 3. 私たち中学生には何ができるか

- ・食べ物や毛布を分ける
- ・保護者の方の代わりに動く
- ・子どもと笑顔で話す など



初めて出会う方々と協力して、私たちにできることを探し積極的に動けると良いと思います。困っている方を見かけたら「どうされましたか」「何かお困りですか」など私たちから声をかけていくことも大切です。

## 高齢者の在宅時の水害が起こった場合の対応と対策

### 大型台風発生による水害への対策

- ・天気予報を日々確認し、大雨が自分の住む地域にいつ頃来るのか見ておく
- ・その日に備え缶詰や水などの非常食、ラジオ、乾電池の準備をする
- ・避難場所への安全な経路を事前に確認する
- ・近くの河川や堤防の位置を確認し、氾濫や決壊したときの影響を確認する

しっかりと準備して災害に備えよう

### 津波の際、高齢の方のために私たちにできること

#### 津波時の高齢者に起こる事

- ・逃げ遅れ
- ・津波に気がつかない



#### 私たちにできること

- ・声をかける
- ・複数人でサポート
- ・おんぶ

### 高齢者のためにどんな水害対策が出来るか

- ・逃げ遅れている人がいないか確認するため
- ↓
- ・近所の人とコミュニケーションを取って、どんな人がいるのか確認しておく
- ↓
- ・危ない道だと怪我をしてしまう
- ↓
- ・安全な道を確認しておく



まとめ  
避難経路の確認をしておく  
地域のかたとの交流を大切にする

自分たちにできることを考えて  
高齢者の方を助けよう！！

# 園児・小学生がとるべき行動とは

## ○ 災害時、どんなことに困るか

- ・どこに避難すればいいかわからない。
- ・必要な物がなにかわからない。
- ・パニックになってしまう。 など...



## ○ どんな対応をすべきか

### 〈普段からできること〉

- ・家族と一緒に避難ルート、避難場所(公民館や小学校)を決めておく。
- ・防災訓練を日頃から集中して取り組む。

### 〈災害発生時にやるべきこと〉

- ・まずはしゃがんで頭を守るなど、自分を守る行動をとる。
- ・特に園児、低学年の小学生は周りの大人や高学年の人と避難する。

## ○ 中学生の私たちにできることとは

- ・もし災害時に困っている子がいたら自分から声をかけ、一緒に避難したり、助けたりする。
- ・防災について知ってもらう機会を作る。



# 高齢者への地震の対応

## 1. 災害時高齢者が困ること

- ・話し声や周りの雑音が気になって落ち着かない
- ・素早く動けない
- ・危険察知や状況判断ができない
- ・持病があり、自分で判断できない



## 2. 高齢者への対応

- ・避難所や避難経路を知っておく(複数用意)
- ・家具家電を固定しておく
- ・緊急連絡先を確認しておく  
(ケアマネジャー、地域包括支援センターなど)
- ・防災訓練に参加しておく

## 3. 高齢者におすすめの防災グッズ

- ・とろみ剤…食べ物に入れてとろみをつけ、飲み込みやすくできる
- ・入れ歯洗浄シート…水なしで拭くだけで汚れや細菌を除菌できる
- ・その他必要なもの…おむつ、老眼鏡、杖など

## 4. 自分たちにできること

- ・家具を固定する
- ・防災グッズを集めておく
- ・足の不自由な高齢者のために車椅子を用意する
- ・一緒に住んでいる祖父母がいれば、地震や災害のときに、どんなものがあるとよいかきいてみる。



# 外国人の方への支援

## ◆災害時どんなことに困る？

- ・災害に対する知識がない外国人が多い
- ・避難所内のルールがわかりにくい
- ・文化や宗教などの違いで誤解が生じる
- ・外国人は援助を受ける面で弱い立場  
→誰に頼ればいいのかわからない



※平時から以下の窓口に相談したり、QRコードのチェックシートを確認しましょう。

国際化・多文化共生事業 - 幸田町公式ホームページ

(幸田町役場 企画政策課 0564-62-1111)

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/kikaku/j/bosaiguidebook/index.html>

(公益財団法人 愛知県国際交流協会 防災チェックガイド)



## ◆こういったときにどんなものや対応があると助かる？

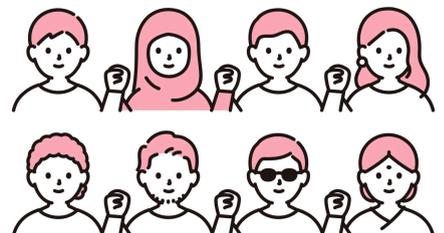
- ・避難(ひなん)、津波(つなみ)、などの日本語を覚えておく
- ・緊急連絡先をメモしておく
- ・防災グッズを用意しておく  
→懐中電灯、カイロ、水、食料(3日分)、ラジオ  
充電器、現金、薬、スマホ(翻訳、連絡など)  
モバイルバッテリー等



## ◆自分や中学生にできることはある？

避難所の場所や安全な道は事前に確認しておくこと。

また、ジェスチャーや絵を使って伝えることもできるので、言葉が通じない外国人も助けられるのではないかと思った。



## ◆参考文献

<http://gensaiaction.net/chapter-5/foreignerindisaster>

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000798087.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000798087.pdf)

# 外国人の方を助けよう



## 1. 外国人の方が困ること

### 【生活時】

- ・コミュニケーション
- ・日本のルール、マナー
- ・食事に関すること
- ・他言語表示の少なさ

### 【災害時】

- ・コミュニケーション
- ・避難所の場所
- ・避難所での行動
- ・災害時でしか出てこない日本語

## 2. どんなものや対応があると良いか

### 【避難の場合】

- ①簡易な表現を使う
- ②緊急時は複雑なことは伝えない
- ③あやふやな言い方をしない
- ④翻訳ツールを用いて説明
- ⑤多言語非常用放送の用意
- ⑥やさしい日本語を使用

やさしい日本語の例→

普通の日本語	やさしい日本語
ご出身はどちら?	どこの国から来ましたか?
飲食は ご遠慮ください	ここで飲むことはできません ここで食べることはできません
地下鉄は 運転を見合わせています	地下鉄は いま動いていません
メモをとってください	書いてください
直ちに避難 してください!	早く逃げて ください

## 3. 中学生にできること😊

多言語を使用した避難地図の制作、配布など





# 地震に備えて



## 〈視覚障害者〉

- ・周囲の状況がわからず、適切な判断ができない
- ・被害状況がわからない&いつもと違う状況
  - ⇒方向感覚を失い、避難所に一人で移動は困難
- ・盲導犬、白杖等の入手が困難
- ・探索者の存在に気づかず、助けを呼べない
- ・避難所では一人で動けず、孤立してしまう
- ・掲示板に何が書かれているかわからない



## 〈聴覚障害者〉

- ・コミュニケーションがとれない
- ・音声の情報(速報など)が伝わらない
- ・周りから見た目だけだとわかりにくい
- ・身動きがとれないとき、発声が困難なため助けを呼べない
- ・補聴器、人工内耳の電池の入手が困難

## ～視覚、聴覚障害者ができる防災～

- ・「耳が聞こえません」「手話ができます」などが書かれている**災害時バンダナ**を使用する
- ・**耳マークの腕章**、**見え方カード**(目の見え方が書かれている)を使用し障害があると気づいてもらう
- ・**ヘルプカード**(障害の情報が書かれている)を使用する
  - ⇒ 健常者の方たちが補助しやすいようにお互いに配慮しましょう



“見え方カード”



“耳マーク腕章”



## ～私たちにできること～

災害時、私たちのような健常者は目や耳からたくさんの情報を得ることができます。しかし視覚、聴覚障害者は情報を得ることが困難です。それに災害時は私たちが混乱しているため障害のある方たちも人に頼りにくくなってしまいます。なので自分たちから声をかけることが大切です。そして聴覚障害者なら**筆談**、視覚障害者なら**音声**で**情報を必ず伝える**ことで不安を少しでも減らすことができます。相手が見えない、聞こえないということを理解して見て見ぬフリをするのではなく、コミュニケーションをとることを心がけましょう。

Good!! 

# 視覚・聴覚障がい者の災害時の行動

## 1 視覚・聴覚障がい者が災害時に困ること

- ・周囲の情報がわからない
- ・避難場所まで1人で移動することが困難
- ・体育館のような広い大勢の人がいる避難所では、一人で移動することが困難
- ・視力を補うための特殊レンズなどが入手困難になる
- ・物の下敷きになった時、発声が困難なため助けを呼びにくい
- ・避難場所についても放送が分からず配給などの援助が受けにくい



## 2 事前にできること

- ・家具の転倒防止の滑り止めなどをつける
- ・落ちて割れたものを踏まないように、カーペットをひく
- ・ラジオをいつでも使えるようにしておく
- ・緊急地震速報の受信がわかるように常に携帯を身につける
- ・補聴器用電池の予備を準備しておく
- ・地域防災訓練などに参加しておく



## 3 災害時に使えるもの

- ・ヘルプカードを作る  
命を守る大切な情報を記入する  
(例)名前、生年月日、血液型、緊急連絡先、かかりつけの病院の連絡先など
- ・見え方説明カード  
弱視の場合見え方は様々なので、自分の見え方を具体的に記入したカードを作る  
(例)視野が狭く中心の視力はあるので比較的遠くまで見えるが、真横や足元が見えず1人で歩くのは困難。
- ・災害時バンダナ  
「耳が聞こえません」と「手話ができます」の2つの言葉が書かれている。受傷時に三角巾や止血帯としても使える。  
ピンクと紫でどこにいても目立つ色をしている
- ・耳マーク腕章  
耳マークとは聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知してもらい、コミュニケーションの配慮などの理解を求めていくためのシンボル

災害時バンダナ↓



←耳マーク

## 4 まとめ

- ・視覚・聴覚障がい者の方は、周囲の情報が入りにくいいため事前に準備しておく必要がある
- ・見え方説明カードや災害時バンダナなど、工夫できることはたくさんある
- ・避難所などでは、視覚・聴覚障がい者の方が困っていたら、助けてあげるのが大切

画像元 [https://www.irasutoya.com/2018/01/blog-post\\_647.html](https://www.irasutoya.com/2018/01/blog-post_647.html)





# 制作

KBI（幸中防災委員会）

R5 年度卒業生